

海外研究発表会報告

報告者：池田玲子

1.	日程	2014年 3月 14日
2.	地域（概要含む）	オーストラリア（パース）
3.	担当者（人数・役割）	池田玲子（東京海洋大学） 金孝卿（シドニー国際交流基金） 岩田夏穂（大月短期大学）
4.	形態	講演とワークショップ
5.	主催	シドニー国際交流基金・パース日本語教師会
6.	テーマ（タイトル）	M a k i n g t h e m o v e t o p e e r l e a r n i n g i n L a n g u a g e e d u c a t i o n ピア・ラーニング授業への移行
7.	内容の概要	講演：池田玲子「ピア・ラーニング授業への移行」 ワークショップ：金孝卿・池田玲子・岩田夏穂 ◆講演 0. 用語の説明 1. ピア・ラーニングとは 2. 協働学習の背景 3. ピア・レスポンスの場合 4. 授業デザインのポイント ◆ワークショップ ピア・ラーニング活動体験 ① 小活動 ストーリー展開を創造する(会話) ② 物語の続きをつくる(会話・小作文)
8.	参加者 (人数・背景・声など)	約 60名（日本語教師 大学・高校他）
9.	担当者の内省	講演部分は英語通訳付きの形式で行った。通訳者が日本語教師（川崎先生）であり、通訳の専門家でもある方だったので、前日の打ち合わせまでにいくらかの変更部分がたにも関わらず、非常にスムーズに進められた。

		<p>オーストラリアでの言語教育は活動中心だと言われているとおり、協働についての理論的な説明についても、その実践についての説明もよく理解していただいたように思う。後半のワークでも用意してきた課題に対し、積極的に取り組んでもらうことができた。おそらく教室実践においても教師たちは学習者に効果的な指示の方法や応用活動もデザインされるのだろうと思う。</p> <p>講演の最後に入れた日本語教育からの発信部分については、今回はやや時期尚早の感があった。削除したほうがよかったかもしれない。</p> <p>ワークショップでは金さんが英語で進めてくれたので問題なく実施できた。</p>
10.	次回への課題	<p>日本語教師の研修といえども、使用レベルには差があるので、内容を多少減らすことになったとしても、やはり現地語で理解を図ることが重要だと思われる。</p>
	会場での様子	


